

平成25年度 和光市立新倉小学校 学校評価

学校評価（共通項目）評価書

柱	N.º	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて 全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	・学校教育目標達成のための基盤づくりが組織化されなければならないと思う。 ・学校教育目標を常に意識し、もっと理解することにより、より発展すると思う。	A	・全教職員で目標に向け努力をし、様々な行事等に教職員が協力して取り組んでいる。 ・先生方は大変だが教育者として頑張っていて欲しい。 ・目標の順番を変更したため、子どもにも保護者にも改めて伝える機会があり心に残った。今後の目に見える成果を期待。 ・笑顔の多い学校。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	・施設の盲点箇所の理解共有が不十分。 ・不審者対応の訓練や、保護者への一斉メール送信などを行っている。 ・児童の対応と同時に私達の水分補給等も必要であると考えるべき。	A	・危機管理体制はきちんと取れているが、日中の校門の施錠等について保護者から心配の声がある。 ・児童が学校に来てから下校するまで、先生達は目配りをしている。 ・遊具の点検なども安全で遊べるように努力している。 ・学校だけの対応は限界がある。委員会など行政が危険箇所改善をバックアップする必要がある。 ・職員、保護者、子ども、地域と協力し合った体制作りへの働きかけはもっと認知されたい
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・TTの活用や放課後の算数補習教室を行い、個に応じた指導を行い、基礎学力の向上を図っている。 ・モジュールの15分は、漢字等の習得に集中して取り組める効果的な時間。 ・個人差解消に向け更に個別指導必要。	A	・算数補習教室など様々な工夫をしている。今後も個人差の対応に努力を。 ・基礎学力の向上に努力している。 ・先生方の学習指導で、児童達は伸びると思う。 ・授業以外での指導等、様々な働きかけ、とてもありがたい。個人差があるのは、受ける側の問題ではないか。
	4	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・校内授業研究を通し、実態把握をし、教材教具や発表の工夫などに努め。授業改善に行った。 ・「考える力」をつけるため、課題設定や発問をしっかりと考えたいが、自分の考えを持っていない児童が多い。	A	・授業改善に努めている。 ・子どもの意欲を引き出す工夫、低学年で特に感じた。 ・勉強ができること、理解できた楽しさを小学校で学ぶことができたら上級学年になっても楽しんでくれると思う。
	5	学校は、学習ルールを共通理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	・教室環境、チャイム、学習準備を徹底した。 ・発言後の「～です。」「～ます。」が不十分。 ・学習ルールの徹底は今一。共通して行うことはしっかり行っていきたい。	A	・学習ルールは大切だが、様々な家庭環境や子どもの特性もあり、どこまでどのように持つていくか大変難しい。 ・学習意欲向上の取組みは大切。今後も継続した働きかけを。
規律ある態度育成	6	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。	B	・挨拶を自然と交し合う関係性や雰囲気づくりがあり、身につけていくと考える。 ・先生や来校者にはできていない。また、挨拶しても顔をそむける児童が多い。 ・家庭の協力が必要。 ・言葉遣いが良くない。単語での会話も多い。	B	・元気に挨拶する児童が増えている。 ・挨拶なしで話しかける。下を向いて通る児童がいる。 ・保護者など来校者に対しての児童からの挨拶は皆無。こちらから挨拶しても反応はほとんどない。 ・教師や来校者など大人に対してと友達と話すように話しかけてくる。
	7	学校は児童生徒の実態把握に基づき、規律ある指導の工夫・改善に努めている。	B	・いじめはないが、自分のわがままから友達を攻撃してしまうことはある。時間をかけて指導している。 ・教卓をきれいにしたり、整理整頓を常に日頃から心掛けた。	B	・挨拶は大切だが、人見知りや気持ちの問題で、挨拶をしたくてもできない子もいる。うまく対応して欲しい。 ・マナーへの大人の認識が欠けてきているようだ。大人へのご指導も。 ・丁寧語や尊敬語、謙譲語などの使い分けは難しいが、そうした知識を持たせることで、日本語への興味関心を高めてもらえればと思う。 ・学校の中だけでは難しい。家庭での努力も重要、家族で話し合ってみる。 ・数件のいじめがあったようだが、文科省の対応も悪く、いじめがあることそのものが教職員の指導不足に評価されていることに改善が必要と感じる。 ・江戸時代の「江戸仕草」はそのまま現在にもつながる。思いやり、気配りについて身につけられたらと思う。 ・ライン等のSNSによるいじめは学校、保護者ともに見え難い。保護者向けにSNS対策の講習会をして欲しい。 ・もしあった場合、全てが終わってからであっても知らせたい。親子で話し合い、直す時間を持つてから。 ・自らが手本になることも「先生」として資質の一

						つ。頑張ってもらいたい。 ・子ども達は多くの目で先生方を見ている。気を付けて欲しい。
健康・体力向上	8	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・元気に外で体を動かす児童が多いが、教室内で読書や話をする児童が見られる。 ・体育の支援教師の様々な準備のお蔭で、授業の充実が図れた。 ・校庭がせまく、意欲的に前に場所がない。	A	・人の脳は体を動かすことにより活性化されるもので、ルールある遊びなどで競争することを楽しんだり、遊びそのものの楽しさを感じられると良い。 ・休み時間は、先生方が校庭で児童と遊ぶ時間を一緒に過ごすことにより、心の交流もできて一石二鳥である。 ・体を動かすことが苦手な子どもでも意欲的になれる手段があれば良いと思う。 ・校庭にもっと遊具や場所が欲しい。
	9	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・投力に課題があるので、ロープとバトンを使った投力向上用具を設置した。 ・いろいろな工夫や取り組みがなされている。	A	・児童の体力に、先生方の工夫や知恵により向上が見られる。ロープとバトンを使った投力用具は大変良い。 ・投力向上用具の働きかけにもっとアピールがあっても良い。もったいない。 ・体力向上が遊びからもあると助かる。
連携	10	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	A	・廃品回収や新倉まつりなどの地域行事に参加した。 ・ホームページが行事ごとに写真が更新されている。	A	・おやじの会などの協力のもと、連携をとっていると感じる。 ・学校は、保護者や地域の支えがあり子どもの防犯への取り組みができる。 ・地域のお祭りにも親子や子どもどうして仲良く参加している。 ・地域力のある地域であり、学校から近寄ることで、全てうまく展開できる。 ・学校で行われる地域祭りや廃品回収などに参加する教職員が多い。更に学校側と保護者側のコミュニケーションの機会を増やすことで、双方の誤解などを未然に防ぐことができる。 ・学校だより等で、教育活動の内容が分かりやすい。 ・昨年度までに比べてホームページの更新が早くなっている。 ・便利な情報提供方法をもっといろいろな場面で活用して欲しい。今以上のものを多くの保護者が求めている。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均点から、

A：3.4以上、B：2.6以上、C：2.0以上、D：2.0未満